

塩ビ管・継手

塩ビ管・継手の特性																								
製品特性	塩ビはその組成のうち57%が塩、43%が石油・天然ガスである。管種によっては有害物質としては鉛を含む(1%以下)。広範囲の耐薬品性に優れ、酸性土壌による腐蝕もなく、また、汚水中の酸、アルカリにも影響されず、老化現象がない。																							
生産	1) 関係主体 塩化ビニル管・継手協会(加盟製造事業者:14事業者)																							
	2) 生産量(単位:トン) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成8年度</th> <th>平成9年度</th> <th>平成10年度</th> <th>平成11年度</th> <th>平成12年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塩ビ製管・継手</td> <td>548,941</td> <td>520,789</td> <td>503,411</td> <td>517,126</td> <td>503,692</td> </tr> <tr> <td>再生管</td> <td></td> <td></td> <td>7,068</td> <td>7,720</td> <td>8,481</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>548,941</td> <td>520,789</td> <td>510,479</td> <td>524,846</td> <td>512,173</td> </tr> </tbody> </table> <p>(出典:塩化ビニル管・継手協会)</p>		平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	塩ビ製管・継手	548,941	520,789	503,411	517,126	503,692	再生管			7,068	7,720	8,481	合計	548,941	520,789	510,479	524,846
	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度																			
塩ビ製管・継手	548,941	520,789	503,411	517,126	503,692																			
再生管			7,068	7,720	8,481																			
合計	548,941	520,789	510,479	524,846	512,173																			
流通・販売	1) 流通・販売形態 管工機材店などに販売される 																							
	2) 販売量(単位:トン) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成8年度</th> <th>平成9年度</th> <th>平成10年度</th> <th>平成11年度</th> <th>平成12年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塩ビ製管・継手</td> <td>547,083</td> <td>518,991</td> <td>501,038</td> <td>521,265</td> <td>505,273</td> </tr> <tr> <td>再生管</td> <td></td> <td></td> <td>7,068</td> <td>7,720</td> <td>8,481</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>547,083</td> <td>518,991</td> <td>508,106</td> <td>528,985</td> <td>513,754</td> </tr> </tbody> </table> <p>(出典:塩化ビニル管・継手協会)</p>		平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	塩ビ製管・継手	547,083	518,991	501,038	521,265	505,273	再生管			7,068	7,720	8,481	合計	547,083	518,991	508,106	528,985
	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度																			
塩ビ製管・継手	547,083	518,991	501,038	521,265	505,273																			
再生管			7,068	7,720	8,481																			
合計	547,083	518,991	508,106	528,985	513,754																			
動脈特性	1) 利用状況 設備(給排水設備、空調設備、工業配管、工業用水等)、下水道、水道、農業用水、ケーブル保護、特殊品(通信回線用管等)に利用されている。																							
	2) 排出までの期間 使用年数は50年(償却年数)以上																							
利用・排出	3) 排出特性 配管施工時に排出される残材、端材と、使用後に排出される使用済み材があるが、量的には使用済み材が大半を占める。残材、端材は工事終了後に管工業者が持ち帰り、使用済み材も容易に塩ビ管だけを分別できるので、散在性は基本的に低い。管種によっては付属のシールゴムを取り除く必要がある。																							
	4) 排出量(単位:トン) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成8年度</th> <th>平成9年度</th> <th>平成10年度</th> <th>平成11年度</th> <th>平成12年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塩ビ製管・継手</td> <td></td> <td></td> <td>36,313</td> <td>37,143</td> <td>36,293</td> </tr> </tbody> </table> <p>(出典:塩化ビニル管・継手協会)</p>		平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	塩ビ製管・継手			36,313	37,143	36,293											
	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度																			
塩ビ製管・継手			36,313	37,143	36,293																			
静脈特性	1) 回収システム及び関係主体 塩化ビニル管・継手協会が中心となって使用済み塩ビ管・継手の受入れ拠点(中間受入れ場、リサイクル協力会社)が整備され、一貫したリサイクルシステムが構築されている。排出事業者が中間受入れ場への運搬費用を負担し、塩化ビニル管・継手協会会員メーカーが協会を經由して、中間受入れ場の維持費用、中間受入れ場の維持費用、中間受入れ場からリサイクル協力会社への運搬費用、協力会社への設備投資助成等の費用を負担している。																							
	2) 回収量 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成8年度</th> <th>平成9年度</th> <th>平成10年度</th> <th>平成11年度</th> <th>平成12年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塩ビ製管・継手</td> <td></td> <td></td> <td>13,000トン</td> <td>14,200トン</td> <td>15,600トン</td> </tr> </tbody> </table> <p>(出典:塩化ビニル管・継手協会、再生業者による回収量)</p>		平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	塩ビ製管・継手			13,000トン	14,200トン	15,600トン											
	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度																			
塩ビ製管・継手			13,000トン	14,200トン	15,600トン																			
処理・リサイクル	1) 処理・リサイクルシステム及び関係主体 塩化ビニル管・継手協会が中心となって使用済み塩ビ管・継手の受入れ拠点(中間受入れ場、リサイクル協力会社)が整備され、一貫したリサイクルシステムが構築されている。排出事業者が中間受入れ場への運搬費用を負担し、塩化ビニル管・継手協会会員メーカーが協会を經由して、中間受入れ場の維持費用、中間受入れ場からリサイクル協力会社への運搬費用、協力会社への設備投資助成等の費用を負担している。																							
	2) 処理・リサイクル状況 再生業者等により再生管、その他製品、再生粉碎原料にリサイクルされている。 リサイクルされる使用済み塩ビ管・継手の量は年間およそ1万5,600トン(2001年9月の数値)																							

塩ビ管・継手の資源循環指標(関連団体:塩化ビニル管・継手協会)		
指標の名称	リサイクル率	
指標の概念	再資源化率に該当	
定義	$\frac{\text{再資源化量}}{\text{排出量}}$	
	廃材や切れ端等として排出された量に対する、再生塩ビ管等に再資源化された量の割合	
定義付けの背景・理由	リサイクルの進捗度合いとして、内部的にも対外的にも最も理解しやすいため。	
目標値(目標年)	80%(平成17年度)	
目標値の根拠	品目別廃棄物処理・リサイクルガイドライン	
現状値及び推移	44%(平成12年)	
リサイクル率を規定する断面		
	分母 分子	
分母	定義	廃材や切れ端等として排出された量
	輸入品の扱い	含めてはいるが、国内販売量に比べて無視できる量である
	輸出品の扱い	輸出品は国内販売量に比べて無視できる量である
	その他	
	数値の出典	塩化ビニル管・継手協会推計
分子	定義	塩ビ管として再利用された量
	プラスチックのサーマルリサイクルの扱い	サーマルリサイクルを含まない
	輸入品の扱い	含めてはいるが、国内販売量に比べて無視できる量である
	輸出品の扱い	輸出品は国内販売量に比べて無視できる量である
	その他	
数値の出典	塩化ビニル管・継手協会推計	